

小学校 6 年 総合的な学習の時間

考える
想像する

話す・聞く

育成したい
国語力

場の様子や聞き手の様子に気付きながら話す。話し手の意図や心情、状況に気付きながら聞く。場の様子や雰囲気から、話し手や聞き手の気持ちやとらえ方などを察し、話し方、聞き方を適切に変える。

単元名 国際理解教育「Let's introduce Japan. ~ 日本を紹介しよう ~」

単元の目標 ・外国の人に日本を紹介するにはどうすればよいかを考え、実際に外国の人と触れ合うことを通して、コミュニケーションする楽しさや意義を感じることができる。

単元の流れ

第1時

日本を紹介するテーマを決定し、グループごとに内容を考える。

第2時

日本や自分を紹介する内容や会話文を考え、練習する。

第3時(本時)

相手の反応を予想し、会話文を考え練習し、対応の方法を考える。

第4時

相手に分かり易い表現の仕方を考え、AET等の外国の人にグループで日本を紹介する。

第5・6・7・8時

日本や自分を紹介する会話を外国の人と共に楽しむ。(社会見学先で)

第9・10時

活動を振り返り、気持ちを交流する。

本時の目標

相手の立場を想像し、相手の反応に対する対応を考えることができる。

本時の流れ

導入

あいさつをする

本時のめあての確認
「相手の立場で考えよう！」

展開

簡単な会話の準備

前時に考えた会話文を基に相手の答えを予想し、それを受けた際の簡単な会話を準備する。

- ・相手の反応を考える文にアンダーラインを引く。
 - ・相手の反応を予想し、その反応に合わせた対応を準備する。(グループの中で分担する。)
- (英語の会話を考えたい児童のために、短冊に印字した既習の会話文を用意しておき、児童が自分のワークシートに貼り付けられるようにしておく。)

会話が成立しない時の対応(グループ)

会話が分かりにくい時はどうするか、グループで考える。

立場を交代して練習(グループ)

自分の立場と外国の人の立場に分かれ、練習をする。

進捗状況の交流(一斉)

まとめ

振り返りと次時の確認(個人・グループ)

おわりのあいさつ(一斉)

視点①

想像する力

会話の場面を具体的にイメージし、相手の状況や気持ちを想像することが大切です。コミュニケーションを支えることは、相手の気持ちを「想像する力」ともいえます。

「I LOVE 京都」GROUP 作戦シート

- (全)Hello.
(A)May we ask you some questions?
(A)OK.
(B)We are from (Hokubu) elementary school.
(全)Nice to meet you.
(一人ずつ)My name is Taro Momoyama.
(全員が自分の名前を言い、事前につくった名刺を渡す)
(C)What is your name,please?
(D)Where are you from,please?
(一人ずつ)Do you know this?
(写真や実物を見せて)
(This is Amanohashidate.
I like a pine woods.)
(This is Origami.
I like folding paper. Watch this!)
- (E) Shall we take a picture?
(F) Once more please.
(全) Thank you!
(全) Have a nice day!
Good-bye!

こんな時は : 担当A
Yesの時 OK.
(予定通り続ける)
Noの時
Thanks.
Have a nice day!

こんな時は : 担当C
分かったとき
繰り返し言いながら記録用紙に書く。
分からないとき
記録用紙に書いてもらう。
Please write your name.

こんな時は : 担当E
Noの時
Thanks anyway.
Have a nice day!

視点②

考える力

相手の反応をイメージして、それぞれの場合の対応を用意します。多様な反応をどのように整理するのか、また、それにどう対応するのか、グループで話し合うことにより、「考える力」を育成します。

国語力育成の視点

この単元では、英語という言語を習得することを目的とするのではなく、主体的に外国の人にかかわり、コミュニケーションしようとする意欲や態度を育成することをねらいとしています。

外国の人とコミュニケーションを行う上で大切なことは、話したり聞いたりする中で相手の立場や気持ちを想像し、どう対応するか考えることです。

また、友達と話し合いながら、活動の中で出てきた課題を追究することや活動を振り返ることを通して、外国の人とコミュニケーションする喜びや外国の人たちと触れ合う楽しさ、また、日本の自然や文化を紹介する誇りを感じることができるようにします。

児童の活動例

- T: 相手の言っていることやみなさんの言いたいことが伝わらないときはどうしますか? グループで作戦を考えてみましょう。
- C: 知っている英語をとにかく並べてみたら通じるかもしれない。
- C: まず知っている英語を使うということも大切だと思います。それでも、ダメなら、英語に頼らなくても、ジェスチャーも入れてみたら、分かってくれると思います。
- C: 私もそう思います。伝えたいと思う気持ちで試すことが大事だと思います。

低学年

中学年

高学年

中学前

中学後

音楽

美術
工
術

家庭
科
・
家庭

保健
体育

特別
活動

道徳

総合
的な
学習